九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

A Study on the Design Methodology for Chair Design Inspired by Historical Chair

甘, 艶

https://hdl.handle.net/2324/2236239

出版情報：Kyushu University, 2018, 博士（芸術工学）, 課程博士
バージョン：
権利関係：

（様式６－２）

氏　　名	甘 艶
論　文　名	A Study on the Design Methodology for Chair Design Inspired by Historical Chair（歴史的な椅子に基づいた椅子デザインのデザイン方法論の研究）
論文調査委員	主　査　　九州大学　　教授　　平井　康之 副　査　　九州大学　　教授　　森田　昌嗣 副　査　　九州大学　　准教授　田村　良一

論　文　審　査　の　結　果　の　要　旨

本研究では、20 世紀以前の歴史的椅子から発想されたモダンデザインの椅子について、そのプロセスに着目し、歴史的デザイン継承のための要件とモダンデザインの双方の要件から、歴史的椅子から発想する新しい椅子のデザイン方法論を導き出すことを目的としている。

文献調査では、研究対象とする範囲を、1900 年以降のモダンデザインの椅子と、その基となった歴史的椅子の関係が明確な対に絞り、モダンデザインの椅子として評価の高い 12 対の椅子群を取り上げ、歴史的椅子を基にしたモダンデザインの椅子のデザインの類似性と、モダンデザインのデザインプロセスとの関係と課題について先行研究を踏まえ論じている。さらに上記椅子群の中からチャイナチェア、プルーストチェア、ルイゴーストチェアを取り上げ、デザインプロセス、製造デザイン、デザインアプローチの視点から詳細な比較考察を行なっている。その結果、歴史的椅子から発想するモダンデザインの椅子のデザイン方法論が、歴史的様式の模倣とは異なり、歴史的文化条件と現代的文化条件の融合という価値を持つことを明示している。そして社会的要件、マーケティング要件、空間要件、発想要件、製造要件、ユーザー価値要件の 6 つの視点として整理を行い、歴史的椅子から発想する新しい椅子のデザイン方法論の仮説構築を行っている。

上記仮説について、まずモダンデザインの椅子のデザイン計画に経験を有する日本の 6 人のデザイン専門家による方法論の検証を試みている。それにより重要な影響を与える要因について、上記 6 要件を指標とし、歴史的椅子を参照する価値と、課題について詳細な分析を行っている。その結果、価値として、「歴史的椅子の再活用の促進」、「異なった時代の社会的要件」、「質的保証」、「マーケティング」に整理された。課題については、「歴史的知識の制約」、「形態的創造の制約」、「歴史椅子参照の制約」に整理され、当該仮説について、課題を条件とし一般化可能であることが示唆された。次にデザイン方法論における、基になった歴史的椅子とモダンデザインの椅子の類似的特徴関係と、ユーザーの嗜好性とデザインの相関関係について、主観評価結果を用いた SPSS で相関分析を定量的に示した点が評価できる。その結果、類似的特徴については、モダンデザインの椅子は歴史的椅子の特徴を、主にバックレストとアームレストから受け継いでいること、素材や装飾からは影響が少ないことが示唆された。ユーザーの嗜好性については、「楽しさ」・「シンプル」・「美しさ」、「持続性」・「安全性」が要素として抽出している点も評価できる。

以上の得られた結果について総合的な考察を行い、歴史的椅子から発想するモダンデザインの椅子のデザイン方法論の仮説を6段階で再構築し仕組みを提案している。そしてその方法論を用いた

モダンデザインの椅子の創作による検証を10人の被験者によって行い、その基となった歴史的椅子と創作されたモダンデザインの椅子について、245人のアンケート回答者による利用者側からの検証を行っている。同様にデザイン専門家へのヒアリングによる検証を行い、その有効性を確認している。創作者からの妥当性の検証と同時に、一般利用者やデザイン専門家の検証によって、歴史的椅子から発想するモダンデザインの椅子のデザインの関係性を明らかにし、その方法論を構築したことは特筆に値する。

よって、本論文が博士（芸術工学）の学位に値するものと判断した。